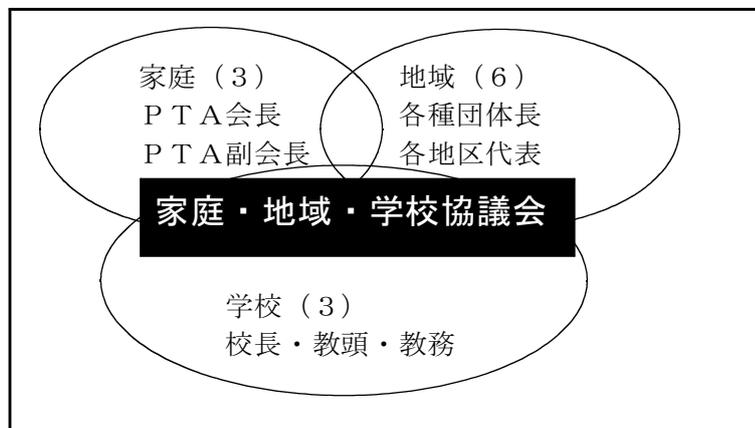


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



地域コーディネーター(3名)

町社会教育委員、今庄旅籠塾理事長、町交通指導員

(2) 協議会の内容

- ・開催回数 3回
- ・開催日程 7月・12月・3月
- ・協議内容
子どもの安全・安心
地域に根差した体験活動
地域の教育資源の活用
家庭・地域の連携
保・小・中の連携
学校評価の分析・対策
行事の調整・精選

(3) 協議会における成果と課題

① 成果

- ・体験学習について、学習の成果を生かして自分に何ができるか？何をやりたいのか？を考えさせたり、地域に向けて発信したりしてはどうかという意見が出た。社会に開かれた教育課程を実現していくために、委員の方に地域の方々と連携する窓口となっただけの手応えを感じた。
- ・交通安全指導について、地域の視点から貴重な助言をいただくことができた。

② 課題

- ・いじめや不登校の現状、対策について、調査をしたという報告だけでなく、結果(数値)や以後の変容について報告がほしいという意見があった。エビデンスを取り入れた報告に努めたい。
- ・家庭・地域・学校協議会の存在が知られていないので、保護者や地域の方々に周知してはどうかという意見があった。地域との連携の観点から前向きに検討したい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の歴史や産業と伝統文化に触れ、地域の方々と積極的に関わりながら学ぶ体験を通して、ふるさと今庄を愛し、誇りに思う心を育てる。

(2) 活動の実際

① 街道浪漫今庄宿2019町並み写生大会（5・6年生）



今庄旅籠塾との連携で、北国街道の往来で栄えた今庄宿の賑わいを知らせることをねらい、町並み写生大会を実施した。児童は思い思いに自分の気に入った場所で写生した。事前に今庄旅籠塾の方から今庄宿についてのお話があり、関心を高めて活動に入ることができた。

②つるし柿作り体験(6年)



つるし柿生産農家の方々のご協力の下、今庄の伝統的な特産品であるつるし柿作り体験に取り組んだ。最初に生産者の方からつるし柿の歴史や保存食としての価値についてお話を伺い、作業を行った。事後のまとめではつるし柿を生かした新しいスイーツについて提案する児童がおり、ふるさとのよさに気づかせることができた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

学校と地域をつなぐ窓口として、連絡調整を行っていただいた。また、より意義のあるものとなるように活動内容に関する助言をいただいた。

(4) 特に工夫した事項

地域の方々との連携を密にし、他の教科・領域と関連付けて、地域のよさが児童に伝わるように努めた。

(5) 成果と課題

① 成果

体験活動をきっかけに町の行事に参加したり、6年児童が町のよさを生かした特産品やゆるキャラを考案するなど、ふるさと今庄を愛しよさをアピールする動きが児童から出てきた。

② 課題

児童にふるさとを愛する心を育成することは本校の重要な課題であり、地域の方々の願いでもある。今後はカリキュラムマネジメントにより、より一層重点的に全教科・領域で育成に取り組みたい。